

横浜市依存症支援者向けガイドライン

『入門・イチから学ぶ依存症支援』

～横浜市内で依存症及び関連課題に携わる支援者向けガイドライン～』

支援の手引き

を策定しました！



冊子表紙



依存症関連機関連携会議にて撮影(令和4年10月25日)

1 支援者向けガイドライン策定の目的

■ 横浜市依存症対策地域支援計画

横浜市の総合的な依存症対策の推進に向け、令和3年10月に「横浜市依存症対策地域支援計画」を策定しています。このなかの重点施策4として、身近な支援者等から依存症支援につながるための取組を掲げており、これに基づき支援者向けガイドラインを策定しました。

■ ガイドライン作成に向けた身近な支援者等へのヒアリング調査結果（抜粋）

依存症支援の困難の程度について、8割近くの支援者が「他の相談支援と比較して大変」と感じているとの結果でした。

また、支援に当たっての課題について、6割近くの方が「依存症の知識不足」、5割近くの方が「自機関単独では支援体制を組めない」と感じていると回答しています。

- 
- ① 依存症の本人や家族と接点を持つ機会のある身近な支援者等が支援に迷った時などに活用可能な、実践的な手引きとなること
 - ② 身近な支援者から、依存症の治療・回復支援を専門とする機関や団体に適切につなぐこと
 - ③ 生活困窮や多重債務、DVなど依存症に関係する様々な生活上の課題を抱えた人を専門機関等から必要な支援者につなぐときに、大切にしたいこと関係者間で共有すること など

①～③を主な目的として、支援者向けガイドラインを作成しました。

2 監修者（横浜市立大学大学院医学研究科 菱本 明豊先生）のコメント

実践場面ですぐに活用してもらえるようなものを作ろうという意気込みで、作ってまいりました。様々な依存症がある中で、それらすべてを網羅することは大変な難しさもありました。今後、皆さんに活用していただき、アップデートすることで、全国でも使ってもらえるようなガイドラインになっていけばいいなと思っております。

3 ガイドラインの“ここに注目！”

■ 依存症支援の困難さ

本人に自覚がないことが多く周囲を巻き込む、背景に複合的な生活課題が潜んでいる など

■ 身近な支援者等に求められること

依存症（疑いを含む）の本人や家族を早期に適切な医療や支援につなぐこと



支援者向けガイドラインには、
依存症の基礎知識、相談対応チャート、本人や家族への相談・支援のノウハウ、緊急介入のポイント、ケーススタディ、連携機関・団体一覧、依存対象別チェックリストなど を掲載しています。

【ここに注目】

- 1 依存症の基礎知識には、具体的な相談場面で活用してもらえるよう、身近な支援者等が疑問に感じていることについて、「支援」の切り口から解説しています。
- 2 依存症対象別チェックリストは、アルコール・薬物・ギャンブル等の家族会の皆様からご意見をいただき、**ステージごとに本人・家族の状況等をまとめました。現状どのステージにいるかをチェックできるほか、おすすめの対処法も紹介しています。**
- 3 緊急度のリスク評価チェックリストは、依存症関連機関連携会議での意見交換や事例検討などを通して、**本人・家族・生活の状況のほか、身体状況も含めて緊急度のリスク評価ができるようチェック式のリストとしてまとめました。**
- 4 ガイドラインの活用を通して、市域の身近な支援機関等や依存症専門機関で依存症支援や回復のプロセスを共有できるようにするほか、依存症関連機関連携会議で意見交換を通して「**他機関・団体につなぐときに大切にしたいこと**」を3つの項目にまとめました。

4 ガイドラインの配布等について

- ① 市ホームページからPDFファイルがダウンロードできます。

【URL】 https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/kokoro/izonsho/izon_renkei.html

- ② 市内の関係機関・団体へは、横浜市こころの健康相談センターにて各機関・団体1冊まで無料で配布します。
- ③ ガイドラインの購入を希望される方へは、販売を予定しています（令和4年12月以降）。

お問合せ先

健康福祉局こころの健康相談センター担当課長 中村 秀夫

Tel 045-662-3526